



Vol.46 秋号
発行
富山市民国際交流協会
広報委員会

〒930-0002 富山市新富町一丁目2-3
CiCビル3F 富山市国際交流センター内
TEL (076) 444-0642 FAX (076) 444-0643
発行責任者 広報委員会委員長 岡田昌代

世界中に友達がいれば…
It's nice to have friends from all over the world!



ALT Welcome Party

8月26日 当センター

2学期から新たに富山市近辺の中学校や高校に赴任した英語指導助手(Assistant Language Teacher) 14名が参加し、会員らと交流しました。

会員手作りの料理やお菓子を食べながら自己紹介をしたり、歓談したりして、楽しいなごやかなひとときを過ごしました。

また、日本語講座や協会の行事なども紹介し、これからも交流を深めていくことを話し合いました。

10月6日は「国際協力の日」です

日本語ボランティア

当協会では、平成9年から日本語支援事業として、日本語学習支援・夏季日本語集中講座・日本語ボランティア養成講座・日本語ボランティア登録者の実践研修を行っております。現在、養成講座を修了された81名が登録されており、それぞれに活躍しております。

今回は、夏季日本語集中講座について日本語ボランティアコーディネーター 原 和子さん(会員)にレポートしてもらいました。

夏季日本語集中講座について

◇いつから

1997年(平成9年)から毎年8月第4週の1週間行っている。

◇目的

富山市民国際交流協会日本語ボランティア登録者の実践研修と外国人の日本語学習支援を兼ねている。

◇対象者

日本語学習が初めての方から初級後半の方を対象としている。

◇クラス編成

日本語学習が初めての方のための「入門」クラスをはじめ、「初級」「会話」「聴解」「漢字」「読解・作文」のクラスがある。

また、ロータリークラブの交換留学生を対象とした特別クラスも昨年から始めた。

◇今年の実績

今年は、8月23日～28日まで「入門(午前/午後)」「初級(午前/午後)」「漢字」「読解・作文」「ロータリー」の7クラスを開設した。

協力した日本語ボランティアは27名である。

◇今年に参加者

参加人数は31名(延べ人数38名)。

国籍は14カ国(米国、カナダ、中国、韓国、オーストラリア、インドネシア、ロシア、イギリス、チベット、フィリピン、バングラデッシュ、南アメリカ、スペイン、チェコ)

◇今年テーマ

毎年1つのテーマを持って開講しているが、今年のテーマは、「日本の文化・生活を学習に取り入れる」とし、そのテーマに基づいてそれぞれのクラスで工夫を凝らした。

また、今年から、外国人への生活支援を目的として、バザーも同時開催した。衣類や生活用品以外に、日本語学習にも役立ててもらえるようにと、絵本の販売も行った。

バザーの店番には、「日本語ボランティア養成講座」の受講生たちが協力してくれた。非常に好評だったので、今後、日本語支援と同時にこのような生活支援的な活動も行う予定にしている。

夏季日本語集中講座の最終日は「学習発表パーティ」を行い、全員一同に会し、軽食をとりながら各クラスの発表を楽しみました。そして、受講の感想文も提出しました。

「受講 感想文」の中から

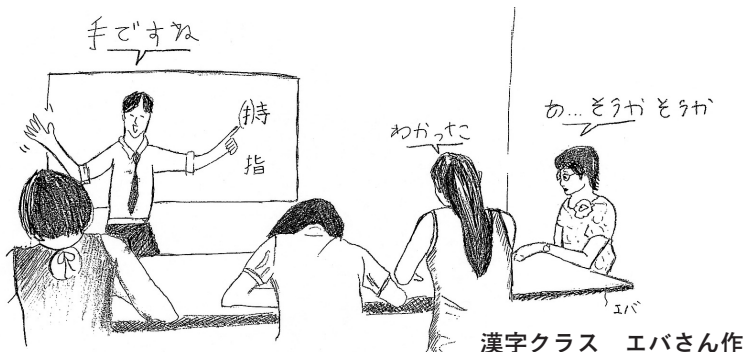
皆さん 元気!

私は来月四日に 家に帰ります。大変ですが来年富山に来たい。今フランスでも日本語と漢字を勉強します。難しいですけど私は大好きです。

漢字のクラスはいつも面白いです。毎日たくさん新しい友達と会います。とても楽しいと思います。

フランスに ようこそ

エバ



漢字クラス エバさん作

初級クラス

動詞の活用形の発展学習をするとともに、「黄色い声」などの色の慣用句、擬音語・擬態語など、テキストにそったふだんの学習ではなかなかできない学習もしました。また、日本文化学習を目的として、「雨にも負けず」や「方丈記」「平家物語」の一節、石川啄木の短歌なども取り入れました。



『知らざあ 言って聞かせやしょう』-「白浪五人男」の熱演。背景の幕は担当教師の手作り。

漢字クラス

絵文字など漢字の成り立ちから始め、漢和辞典の使い方も学習して好評でした。書道にも挑戦して、漢字のおもしろさを感じていただけました。



「紀良里」を手にしているのは、富山南高校の留学生ヒラリーさん。自分の名前を漢字にして芸術的な書道を体験。消しゴムで「はんこ」も手作りして、自分の作品に押しました。

読解・作文クラス

日本の昔話「桃太郎」を題材として読解をすすめ、受講者たちそれぞれの国の昔話を日本語で作文するという学習を行いました。



最終日「発表会パーティ」での1コマ。日本の昔話「桃太郎」の紙芝居に挑戦。内容をほとんど暗記して上手に発表しました。会場からは、感嘆の拍手喝采でした。

委員会報告

もっと知ろう世界の街「インド」



講師
プチャバリ・スリニワスル・
レディ氏

9月12日
当センター

レディさんは、民族衣装で出演しプロジェクターで映像を使いながら、出身地のネッロール県などの生活の様子やサリー、ターバンの話し、そして、自身の結婚式を通しての日本との違いなど興味深い話しをされました。

また、紙幣に18ヶ国語での記載がある例をあげながら言葉（言語と844の方言）がインド国内での大きな壁になっているということや、教育については識字率の低いこと、学校に行けない子供たちが多くいることも話されました。

民謡交流会

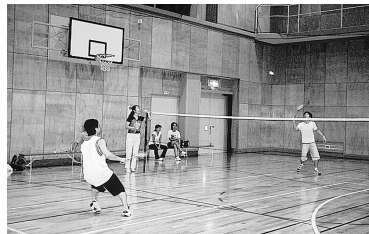


8月1日
とやま市民交流館

留学生や富山在住の外国人など18名が参加して、「越中おわら踊り」を踊って交流をしました。

講師のやさしく手取り足取りの指導で、外国人の皆さんも上手に踊れるようになり、「富山まつり」での踊りを楽しみにして交流会を終わりました。

スポーツ交流会(バドミントン)



9月26日
東富山体育館

外国人と会員ら16名が参加して団体戦と個人戦を行いました。各選手はシャトルを一生懸命追いかけてプレーしました。

優勝は…団体 マレーシアチーム 個人 フェリーさん(インドネシア) 勝った人、負けた人、みなさん楽しく交流できました。

文化交流委員会

OWARA DANCE in TOYAMA



第44回富山まつりの「越中おわら踊り」に当協会も参加しました。今回は、7回目の参加となり「富山市民国際交流協会」のプラカードを先頭に富山在住の外国人たちと会員らは異文化交流と思い出作りに熱い汗を流しました。

8月7日 城址大通り

入門クラス

日本語ゼロレベルの人が対象。「おいしそう／おいしかった」など生活にすぐ役立つ表現をはじめ、動詞・形容詞を中心として日本語の基本文法を学習。「サイゼリア」に行って食事体験をしたり、図書館で図書カードも作りました。



楽しい中でも真剣な面持ち。一生懸命勉強しました。

ロータリー交換留学生クラス

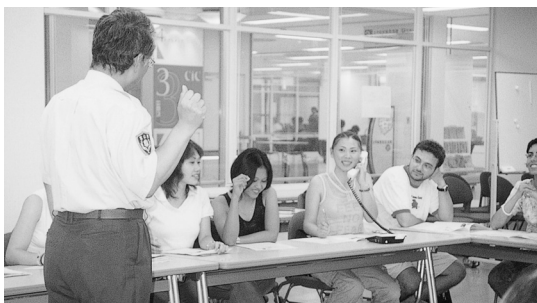
全員来日2日目に参加。「～はどこですか」など、ホームステイ先ですぐ使える表現をはじめ、電話の会話なども取り入れました。



日本に来て3日目の交換留学生。初めてのファーストフード店での注文に挑戦。「お持ち帰りですか、こちらでお召し上がりですか」という決まり文句にもドキドキ。でも何とか注文できました。

全クラス合同

「日本での生活」学習の1コマとして119番のかけかたや消火器の使い方などを実習。消防署の方に来ていただき、指導を受けました。



『火事ですか、救急ですか』『場所はどこですか』住所を伝えるのにもひと苦労でした。

バザー

日本語講座と同時開催。外国人の生活支援も日本語学習支援と同様に取り組みました。ショッピングも楽しめる日本語講座はユニークと大評判でした。生活用品の他に、日本語学習にも役立つ絵本がよく売れました。



安くて便利なものがいっぱい。つい衝動買いをしてしまいそう。

委員会報告

英語スピーチと討論の会(ESD)

8月度例会 8月11日 18:30~20:00

テーマ 「Blue Rose」
スピーカー 若林 守光氏(メンバー)

最近サントリーが青いバラの開発に成功したと発表があった。
青いバラは、不可能を意味することで知られるように永遠の夢であり、青と言う色も「青い鳥」などに象徴されるように求めつけられる幸せの象徴でもある。

バラの世界では、交配により青いバラを作る試みがたくさんの人たちによってあきらめることなく続けられてきたが、せいぜいで藤色か赤紫の色に近い色がでた程度で限界があった。

商業用切り花の三大品種である、バラ、菊、カーネーションのいずれも自然には青色が存在しなかったが、サントリーはカーネーションでは「ムーンダスト」という品種をすでに発表しております。

自然のバラには、本来青色の色素を作るための酵素が存在しなかったため、今回は、パンジーの青色の酵素をつくる遺伝子をバラに組み込むことで青バラを作るのに成功したものである。

自動車の世界では「青い空」を実現する無公害エンジン、電子産業では青色発光ダイオード、これらはいずれも夢の技術であり、当時はいずれも不可能とされていて、夢の技術であったが、これらはすべて日本人の手によって実現された。



海外の勤務経験を有する講師は、ご夫妻でバラ栽培を楽しみ、見ごろを迎える頃は、自宅のバラの庭を開放しておられます。富山県バラ会会長(2004年8月まで)も務められ、その若林ご夫妻のバラへの思い入れに参加者たちは感動しました。

これらの講話・座談・討論などすべて英語で行なわれました。

多国言語文化交流クラス

ブルガリア&ブルガリア語

7月3日

講師 ゴルニッツァ カメナルスカ氏(富山県立大学研究生)

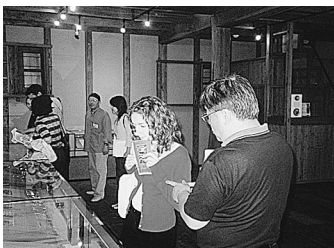
ブルガリアは、バルカン半島に位置し面積は日本の約1/3、人口は約800万人、ヨーグルトや“バラの谷”のバラの香水などが有名です。

講座では、講師の父上の出身地でもあるという“バラの谷”の話や「スルバカネ」「セイント・テレホン・ザレザン」「ラザルウパネ」などお祭のこと、民族衣装についてなどを聞きながら音楽も楽しみました。

また、実物のバラ水にも触れることが出来て、ブルガリアの豊かな文化が垣間見ることができたようでした。



ディスカバー富山



民俗民芸村 売薬資料館 9月25日

富山在住の外国の人たちと当協会のメンバーは、バスで近郊の名所や文化施設などを訪ねました。

コース：五百羅漢一座禅体験(長慶寺)ー露天風呂体験他(呉羽ハイット)ー民俗民芸村ー石倉町延命地藏ー富山市国際交流センター

国際教養委員会

ボランティア養成講座

〈立山の崩れと生きる〉

＝災害に対する危機意識を高めよう＝

講師 吉友 嘉久子氏
(立山カルデラ砂防博物館理事)



9月4日 当センター

安政5年(1858)の大地震により常願寺川の流域が土石流で埋れた。常願寺川流域に散らばった大転石たちが川の水量が増すたびにその流れの向きを変え、土石流が大きな氾濫を繰り返し、暴れ川と呼ばれるようになった。明治に入ってから常願寺川改修計画が進められて、水源荒廃地での砂防ダム建設がはじまった。そして、現在も立山カルデラでは、その自然の脅威からの危険を防ぐための工事が続けられている。

大自然に挑んだ砂防の歴史、命をかけて立山の崩れに挑んだ人々、そこには、川と闘った数えきれない人々がいました。

講師は、その中のほんの一握りの人々との出会いから“そこで働く人たちが命をかけて立山の崩れに挑んできたのはなぜなのか”立山カルデラの砂防工事にすべてをそそいだ4人の男女の人たちの人生と、そのとてつもない歴史のドラマを背景とした事実を熱く語られました。

参加者は、予定の時間を過ぎてもまだ続けてほしい様子でした。

講座の終了後は、災害に対する危機意識が高まったのか参加者の多くは、明日にでも「立山カルデラ」に足を運びたくなったようです。

プロフィール OFFICE・よしとも代表
財砂防・地すべり技術センター理事
立山カルデラ砂防博物館理事
立山砂防女性サロンの会アドバイザー
著書「巨石が来た道」
(平成8年建設大臣表彰受賞)
「立山の崩れと生きる」ほか

災害ボランティア活動支援体制づくり

当協会では、「富山市災害ボランティアネットワーク会議」が設立されたのに伴い「災害時に国際交流のボランティア団体として何ができるのか」を模索するため大震災を経験した阪神方面や、静岡県などの先進協会を視察訪問しました。

富山市民国際交流協会としてできることを、日ごろからみんなで考えて“もしも…”に備えましょう。

料理交流会

日本の家庭料理

「味噌汁の作り方を教えて欲しい」という中国、インド、南アフリカ共和国など外国の人たちと会員らはボランティア委員会 轡田民子委員長の指導を受けて、日本の家庭料理を作って交流しました。生姜入りごはんは「食欲が出て夏にはいいね」とおかわりをする人もいました。味噌汁は、テーブル毎に味が違うようで味比べもしたりしました。

「もう、ミソスープ作れるよ。オフクロのアジは、大丈夫！」かな…。

メニュー

生姜入りごはん、とび魚のみどりみぞれかけ、小松菜のからしあえ、とうふとわかめの味噌汁、豆乳プリン



7月16日
エルフ富山

ホームビジット

会員 安達 陽子さん

7月24日 朝から暑い！

我が家に富大留学生センター・日本語研修コース研修生の王鷗さん（中国）を迎えました。

妹のような王鷗さんと一緒によい一日になりますようにと楽しい計画をたてました。

ドライブー氷見の実家へー両親・祖母たちと一緒に食事（素麺、すしなど）ー海岸で遊ぶー魚市場を見学ー護国神社

あっという間に大切な一日は過ぎてしまいました。

感想 短い時間でしたが、たくさん話すことができて良かったです。こちらの何気ない会話の端々にも質問してくれたりして嬉しかったです。私たちも日本語について考える良いきっかけにもなりましたし、日本のことを説明する難しさも体験でき、とても有意義な一日になりました。



7月24日
護国神社

ボランティア委員会

姉妹友好都市紹介講座

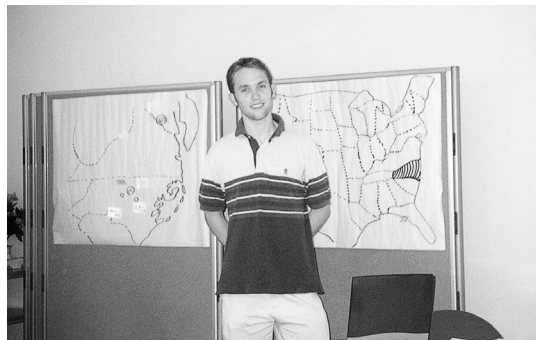
ダーラム市ってどんな街…

当協会では、富山市の姉妹友好都市ダーラム市で現在パビリオンの建設計画が進められていて建設資金の募金運動を行っています。

そのダーラム市とは、「どんな市なのか」近況を聞く会を7月12日富山市国際交流センターで開きました。講師には、2年前から英語助手として堀川中学校で活躍しているブライアン・アーウィンさんを迎え、会員20人余りが熱心に耳を傾けました。

アメリカのノースカロライナ州にあるダーラム市は人口196,900人、白人45.5%、黒人43.8%、アメリカ有数の学園都市で医師2,000人、労働者の3分の1が医学関係に従事している医学の街でもあります。昔はたばこ産業が盛んで当時の赤レンガ造りの倉庫が今も残っているそうです。

来年は、ぜひ訪問したいと思っています。



熱心に近況を説明するブライアン・アーウィンさん

姉妹友好都市委員会

お願い ダーラム市日本風パビリオン建設資金の募金協力について

たくさんの皆様のご協力ありがとうございます。募金は10月末までお取り扱いしておりますのでよろしくお願いいたします。

払込方法 富山市民国際交流協会窓口にご持参いただくか、下記口座にお払い込みください。

【郵便局】郵便振替口座 No.00770-0-74654

【銀行】北陸銀行富山駅前支店 普通預金 No.5048530

*口座名義は、いずれも「富山市民国際交流協会」です

会員のみなさんへ〈会費納入〉のお願い

○会 費 1口 個人 3,000円 家族 5,000円
団体・法人 10,000円

○納入方法 ①当協会窓口
②振込の場合は
北陸銀行富山市役所出張所
口座「富山市民国際交流協会」
普通預金No.4076440



9月3日
当センター

WELCOME TO TCA

内閣府主催「東南アジア青年の船」の参加者11ヵ国29名の青年たちが当協会を視察訪問しました。協会の活動について説明を受けた後、お茶とお菓子を囲みながら当協会の会員らと交流し楽しいひとときを過ごしました。

一行は、9月3日から5日まで富山に滞在し、ホームステイなどを通して、富山の文化や自然に触れ交流の輪を広めました。

お知らせひろば

お申し込み・お問合せは当協会まで
TEL 076(444)0642 FAX 076(444)0643

行 事	日 時	と ころ	担当委員会	会 費
多国言語文化交流クラス(ルーマニア&ルーマニア語) ユーリア・ヴァニェク氏(ルーマニア大学助教授)	10月2日(土) 13:30~15:00	当センター	国際教養	200円
英語スピーチと討論の会 特別例会 講師 ロバート・アロン・シャウマン氏(中央農業高校ALT)	10月13日(水) 18:30~20:00	当センター	国際教養	無 料
国際交流フェスティバル 2004	10月23日(土) 13:00~17:00 ~24日(日) 10:00~16:00	CiC及び当センター	合 同	
多国言語文化交流クラス(マレーシア&マレーシア語)	11月6日(土) 13:30~15:00	当センター	国際教養	200円
和楽器体験(箏)	11月7日(日) 13:30~15:00	当センター	文化交流	無 料
料理教室	11月18日(木) 10:00~13:00	エルフ富山	ボランティア	400円
茶道	11月28日(日) 13:30~15:30	星井町地区センター	文化交流	無 料
多国言語文化交流クラス(ドイツ&ドイツ語) アニータ・パーレイ氏 (高岡市ブレーメン州立経済工科大学研修生)	12月4日(土) 13:30~15:00	当センター	国際教養	200円
年忘れパーティ	12月12日(日) 11:00~13:00	当センター	ボランティア	400円
新春国際交流のつどい 2005	1月8日(土) 14:00~16:00	CiC多目的ホール	合 同	中学生以上 1,500円
和紙工芸教室(和紙人形)	2月6日(日) 13:30~15:00	当センター	文化交流	100円
TCAカレッジ「イスラムの世界について理解を深める」 岡倉徹志氏 富山国際大学教授 (2/26 9:00~10:30)	2月25日(金) 18:30 集 合 ~26日(土) 12:00 解 散	富山観光ホテル	総務企画	1泊2食付 7,900円
もっと知ろう世界の街	3月13日(日) 13:30~15:00	当センター	文化交流	無 料

新春国際交流のつどい 2005

- ・と き 2005年1月8日(土) 14:00~16:00
- ・ところ CiCビル 5F 多目的ホール
- ・参加費 日本人(会員) 中学生以上 1,500円
外国人 無料
- ・募集定員 150人になり次第締め切ります

TCAカレッジ

- ・テーマ 「イスラムの世界について理解を深める」
- ・講 師 岡倉徹志氏 富山国際大学教授
- ・と き 2005年2月25日(金)~26日(土)
- ・ところ 富山観光ホテル
- ・参加費 7,900円(1泊2食付)
- ・募集定員 30人になり次第締め切ります

編集後記

「平和の祭典」第28回夏季オリンピック・アテネ大会の開会式をテレビで鑑賞しました。国名がアナウンスされると国旗を高々と掲げ、選手たちが登場して来ます。国名を聞くたびに私は、「ああ、クラウディアさんはどうしているかなあ…」などと一人言を言ったりしながら「アリさんは…」「スナイさんは…」と、みんなの顔が思い出されてきてオリンピックの映像と私の心の中からの映像が重なり合ってそのうちに涙で画面がかすんできてしまいました。まわりの家族たちは、私のその様子にそっと目をやり、賑やかだった声も少し静かになっていきました。

私は、国際交流のボランティアに関わりながら多くの人たちからいくつもの感動をもらいました。いろいろな国の人たちに出会い、交流しながらお互いを少しずつ理解合い、お互いの幸せを祈り合い、そして、だんだんと心を癒いでいて、みんなの幸せと世界の平和を祈りました。普段は口数の少ない彼らも故国の事を家族の事を話す時、熱く語ってその思いが伝わってきます。

It's nice to have friends from all over the world!

世界中に友達がいれば…。これからもより交流を広め、より親善を深めていきたいですね。

広報委員長 岡田昌代